

毎月一回15日発行 昭和50年5月15日発行・第65号(昭和45年9月4日第三種郵便物認可)

リベルテール

5月号



▲1975.5.1 原宿メーデー会場にて

Libertaire VoL, VI, No 6

無 政 府 主 義 誌

昭和45年9月4日第3種郵便物認可
昭和50年5月15日発行第65号

リベルテール 定価一〇〇円(郵便料共)

- リベルテール Le Libertaire
- 1975年5月15日発行 VoL, VI, No. 6
- 編集兼発行者 三浦精一
- 発行所 東京都練馬区大泉学園町2190
萩原晋太郎方 リベルテールの会

新発掘「和田久太郎から和田信義への手紙」

此の間石井と俺宛に来た君の伝言の様な手紙を見た。その他君の厚意に依って、京都に居る久板君からの通信も速く来て居る。も少し早く何かを書いて送らうと思つて居たんだが、何にしろ暑さでえ奴は、体を駄目にするんでね。まあ文句があつたら天道坊にかつて置かうや。いくら君が感情家で、江戸子だった所で、行く〇〇泣くんじや見つともねえ。近頃の労働問題の形勢よりなほ一敗の奔流だ。変転だ。まあ最少し遣れよ。経済がまたなきや岩出親方の財布をカッバラふさ。ふざけるのは此の次にして、実は少し用事があるんだ。面会の節岩出君にも頼んで置いてんだが関西労働同盟の『労働新聞』を初号から取揃へて大至急送つてくれな。いか。九日の夜まで是非入用なんだ。尽力を乞ふよ。それから『大阪鉄工組合』の税関新聞(或は雑誌)も初号から送つて欲しい。勿論友愛会の分と同時にね。だが此の頃の方は手に入難いなら発行所を知らして欲しい。〇〇天満橋辺の夫婦が何か組合の様なものを作つてゐる様じやないか。これの機関のやうな出版物か、会則等があれば、これも欲しい。僕の方から送るべきものは、橋浦君の〇便を利用すると、岩出君に云つてくれ給へ。亦酒臭い(蛸安辺りの)気焰をはこう。八月二日夜 久太

〔註、一九一九年のもの。〇は文字不明〕

日本人であること

1975年5月巻頭言

現代史の展開はほとんど個人の生活経験や知識を絶するものがある。南ウェトナムの発展の今日の事実に喝采する人も嫌悪と無視と冷淡を装う人も事実は事実として冷徹であろう。むろん「是天下大乱」の徴と看破した中国の現実家達にしても事がここまで進むとは、正に歴史の趨勢としか名辞でまきまい。動かしているのは民衆である。ウェトナムの民衆が握りのサイゴンに在住した資本家、米系金儲け屋、米資本の走狗並びに敗戦後米系と組む日本の巨大企業及び中級企業の走狗達ではない。ウェトナム民衆が自分の手で血で汗で獲得したのが、現在のウェトナムの現実である。共産主義は一個のイデオロギーだ。それはもう一つのイデオロギーである。民族主義は一步譲つたかのように見える。けれど注意しよう。歴史が教える所ではいづれにせよ新しい権力者達がいつかは山賊の分け前のように英語ではライオンズシェアと言う。この新現実を自分達に都合のいいように改変してしまふのだ。人はいかも知れない。それにしても同朋の間での流血がなくなら、異民族の干渉が消え、労働者が資本家から権力を奪取し、男女は平等になつたと…そう…それは間違いなく良い事である。しかしラジカルは考える。それでは不十分

★目次 1975年5月号

巻頭言	1
メーデー報告・提案	2
生活と葛藤	4
岩佐小論	7
国家覚え書(6)	9
野火	13
編集室	16
資料・和田久太郎の手紙	17

である。全権力を民衆へ！民衆の自治に委せよ。勿論こでも一握りの知識階級に委せてはならない。民衆にである。あなたと私と彼と彼女であつて、前衛の党にはないのだ。既にレーニンは言った。「革命において権力が何処にあるかが問題である。ブルジョワにあつたのがフランス革命だ。プロレタリアートにあるべきで、しかもそれはプロレタリアートの前衛党にあるべきだ。」こうしてソビエトは官僚制に移行した。その有様は私の若い友人が言うように西欧に起源するマルクシズムをロシアの風土に移したからではなく、ロシア個々の東洋的専制主義とギリシア正教の神秘主義の低位にある秘密主義との混合物の仕業なのである。

同じように中国は再び中華思想になじみ、マルクス主義を中国民衆に射込む矢としている。(参照毛語録)その意味はマルクス主義が中国の近代化に有効であつて(注東洋的中央集権とマルクスのユダヤ的家父長制、一神教的神権政治のアナロジー)―それには日本を含む西欧の帝国主義が逆説的に支援したので―これは私の見る所、実に歴史的必然であつた。心ある人なら中国民衆が日本を含む、西欧諸国民の利権のエサになる必要は少しも無いと思つた。そこで日本人であること…とは虚妄な歴史の主役を勤めることなく、天皇制を伊勢神宮と天皇家に奉還して、民衆の自治に委せることである。さすれば巷にある正義と平等の喝望は民衆の英知、武釘錐頭を通じていやされ、武断政治の覇権は再び許されまい。それが例えエリートという名の知識人官僚制であつても許しはしないのだ。

(文責・はしもと)

■5・1メーデー共同行動の報告

無政府主義者連盟関東地区準備会のメーデー共同行動への呼びかけに応じ、リベルテールの読者も原宿駅前歩道橋の四本の黒旗に合流した。歩道橋上のマイク演説とその下でのピラ配りを終えた後、中央会場へ向う路上でのピラ、パンフ販売を行なった。三千枚のピラはほとんど午前中に配布してしまったので午後には黒旗を先頭、に列をつくり巡りして会場をぬけ近くの懇談会場へ向って歩きはじめた。

懇談会では、共同行動のまとめと今後の展開の方法について準備会の司会で、話し合った。まず、情宣としては去年より活発でありむこうからピラをうけとりにくる人もあつたりして成果は期待できそうである。しかし共同行動にしては呼びかけに応じた人は少なく、又呼びかけ団体のうちでは半分の四団体全員で十数名しか時間をつこうして参加する者がいなかったし、大部分が準備会のメンバーで、各団体の相互交流というには貧弱であつた。等の発言の後、今後の展開について、共同行動に参加した団体を核として各人の知人等にまで範囲を拡げた「無政府主義討論会」を月に一回準備会の積極的な推進に

よってひらく事を決定した。(K)

★ ★ ★

おそらく近々、関東地区準備会からも報告があると思ふが準備会の呼びかけに応じてメーデーの共同行動を行なった。リベルテールの会からは編集員二名がうちあわせ会の段階から参加、共同のスローガン作りなどを行なった。又リベルテールの会有志により準備会等との共同ピラ以外の二種のピラを約三〇〇枚まいた。

共同行動をうちあわせ会の段階からできたというのは一つの成果であると思う。僕個人としては関東地区準備会の性格について少しく考える所もあるが、ともかくメーデーというものを共同行動という意識を持って、しかもやるということ、ピラの文案から共同作業ができたのはよかつたと思うのである。

リベルテールの会のもは関東地区準備会のものが用意してくれたものに乗つたという形でほとんど準備会の人々まかせで行なつてしまつたが、紙上をかりて関東地区準備会の人々の努力に敬意を表したい。(Y)

■メーデー情宣について

僕個人としてはメーデーは労働者のお祭りである、と

いう大多数のメーデー参加の労働者の意識は認めねばならないと思う。その上に立つて情宣行動を行なつた、といつてよいかと思う。

このように考えた時、メーデーにおける情宣など無益という人々がいるが、実際あまり効果があると思わない。組合に黒旗を立てるといつた所で、そんな事をしたらしい人は多くの場合除去されてしまうからだ。しかし他にめだつた情宣をしていない(できないのかもしれない)僕としてはメーデー情宣を続けてもよいと思つている。

黒旗を持ってピラ配りをしているとオヤと思つてピラを取りにくる人や露骨に拒絶する人にであらう。そういうことを見ると情宣もまったく無駄ということも無いと思ふのである。ただ、情宣といつてもピラ配り、デモといふだけでなく、もう少し考えてよいのではないかと思ふ。将来、メーデーをアナキズムにおける記念日として行なうのなら、独自の会場による独自の行動も必要になつてくるかもしれない。メーデーに対してそうまでするのは一度じっくり考えてみる必要があると思ふ。

メーデーを単に情宣レベルで考えると抵抗があるが、僕としては労働を皆と共に拒絶する日として行動したい。情宣ではなく、自己の資本、もしくはは体制に対する姿勢

として表現したいと思つている。しかしメーデーがお祭りのようになっていく、参加者もそう思つている、という事実は認めねばならないだろう。(Y)

無政府主義者は訴える

メーデーはお祭りではない、

一目でメーデーとして労働者の威力を示す血の叫びだ、

資本家政治家労働官僚の眼を睨まざれば、

議会の幻想を掃き、投票は自由の放棄である、

労働者の解放は労働者自身の力で、

今こそ直接行動を管理機構を叩き潰せ、

議会の幻想を掃き、投票は自由の放棄である、